

令和元（2019）年10月30日（水）

静岡県浜松市（政令指定都市）



○市の概要

面積：1 558.06 km²

人口：802,856人、世帯数：340,896

（令和元年10月1日現在。住民基本台帳より抜粋。）

※参考：人口は、県庁所在地である静岡市

（令和元年10月10日現在：698,937人）より多い。

予算：令和元年度一般会計予算 3,501億円、特別会計 2,176億円

○面積、議員定数：平成17年の大合併により、7つの行政区を合わせて、面積は市では全国2位。合併前の議員数216名が現在の46名になった。

○浜松市の特徴：オートバイや楽器等の製造業の街。市内から、周辺の工場に通う人が多い。過疎化も進んでいる。食ではうなぎ（養殖）が有名。餃子は家庭の消費量が全国1位。NHKの大河ドラマでは「おんな城主直虎」「いだてん（出演の田端政治氏＝水泳日本の父）」と縁がある。

◆視察内容「ユニバーサルデザインのまちづくりについて」

○説明員：鈴木氏（市民部 UD・男女共同参画課長）

河合氏（市民部 UD・男女共同参画課 UD推進グループ）





- 平成 15 (2003) 年 (平成 14 年 12 月 17 日、浜松市条例第 100 号) 浜松市ユニバーサルデザイン条例を全国に先駆けて制定。
- 外国人が約 2 万人 (全国 1 位) 在住。うちブラジル人が約 9,000 人 (全国 3 位)、次いでフィリピン、中国、ベトナム、インドネシアからの外国人市民が多い。2019 年 8 月オリパラのホストタウンの認定を受け、ブラジルから約 400 名の選手団等を受け入れている。この他、多文化共生センターの開設等さまざまな多文化共生施策を実施。

ユニバーサルデザインとは「すべての人のためのデザイン」

(パンフレットより)。

○組織体制

・所管は当初、都市計画課内に置く。ハード面やUDの普及・啓発に努める。認知度、(内容の)理解度はだんだん上がっている。

○推進体制

・課設置。審議会設置(構成員は有識者、障がい者、市民団体等)。
・ユニバーサルデザイン推進本部設置。(本部長:副市長)
・課長クラスで推進学習会を実施。色覚デザイン等の研修会を開催。UDと男女平等のテーマを隔年で実施。新規職員(教職員含む)にも研修を実施。

○ユニバーサルデザイン計画

・総合計画の下に分野計画が7つある。U・優プラン(H14~23年度)、U・優プランII(H24~33年度)。地方自治、都市計画の中にもUDプランがある。

○学校教育

・学習支援事業を実施。企業(ヤマハ、ToTo、遠州鉄道、タクシー会社、メディアサポート(印刷)、レストラン、野菜生産業等)による出前講座、UDサポーターの派遣、UD学習支援ガイド(市のUD施策を学んだ市民をガイドとして登録し、学校での講義のサポーター等市のUD事業に協力してもらう)の養成等を実施。

○社会教育

・保護者へのUD啓発を実施。

○ビジネスセミナー

・英語のメニュー作り等を実施。

○UDトークの活用

・タブレット端末を利用し、音声を文字化するシステムを導入。聴覚障がい者や外国人等とのコミュニケーションツールとして統一的な利用が可能。

○職員に対する取組み

・バリエーション貸出し:色弱の疑似経験ができる。ゴミ収集カレンダーはハッチング等で曜日がわかるよう工夫している。

○公共建築物ユニバーサルデザイン指針の作成

・利用者が選択できるように、ローカウンターとハイカウンター、二段手すり等を設置。
・思いやり駐車場(身体障害者用駐車場とは別に、乗降に広いスペースを必要とする高齢者、障がい者、妊産婦、ベビーカー使用者等のための優先駐車場)を設置し、ハートのシンボルマークを表示。(浜松市独自)
・多目的トイレは片側麻痺等の人に配慮し、設備の位置が左利きのものと右利きのものを設置。
・受付カウンターまで誘導用点字ブロックを設置。

・音で知らせる火災報知器や、注意喚起のパトライト、災害発生を知らせるモニターを設置。

・歩道の縁石部分にUDブロックを設置。視覚障がい者や車椅子使用者に配慮し、路面が連続して平坦となっている仕様。(浜松市独自) ※街中の大通りの交差点や、遠州鉄道の高架下の通り等に見られた。

・音声案内サインの設置。地図のボタンを押すと、音声案内が流れる仕様。設置が斜めになっており、車椅子の人が近寄って見ることができる。

※市内にある地図は、広い範囲と狭い範囲の2種で構成されている。ビルや店の表示も詳細で、いま自分がどこにいるか迷うことがない。

○その他ハード面

・路面誘導サインの設置。マンホール型で、音符の矢印が目標物の方向を指示。蓄光材の使用により、夜でも見える。

○今後のユニバーサルデザイン

・まち(ハード)としくみ(ソフト)をこころ(ハート)でつなぐ。

質疑応答

Q: UDブロックは、素晴らしいアイデアですね。どのようにして開発したのでしょうか。

A: 民間業者と共同開発しました。平成19(2007)年に指針作成、20年に道路指針を作成。これは点字ブロックと併用することを義務付けしています。

Q: UDにかかる予算はどのようにしているのでしょうか。UDは必要なことですが、ほかにも喫緊の課題があるでしょうから、確保が難しいではありませんか。

A: ハードの分は、担当部署が予算をつけます。私たちの部署は、啓発などが主なので、そんなに予算がかかるということはありません。

Q: 課長クラスに研修をしているということですが、UDの趣旨を、全部署にきちんと浸透させるのは、大変ではないですか。

A: 繰り返し、繰り返し伝えます。印刷物などについては、こんなので?と相談を受けたりします。ただ件数が多いので、全部をカバーしきれないこともあります。

Q: 国や県の補助などはあるのでしょうか。

A: 補助はありません、ハード面は事業によってはありえますが。

Q: 少し聞きづらいことですが、浜松市さんのUDの取組みが素晴らしいことを知って、当事者が流入するなど増えることで、その分の予算の確保が必要になる、ということはありませんか。

A: それは、別にないですねえ。

Q：UD トークは、素晴らしいです。導入費用を伺えますか。

A：法人契約だと、初年度 300 万円（通信費含む）で、翌年度は減ります。でも、手話は必要です、その方がよいという方もいらっしゃるのです。ただ、情報保障という面では（手話は要約なので）、UD トークには意義があります。

Q：課長さんたちが手話を研修するということですが、正直に言って大変ではありませんか。

A：当市には「手話言語条例」がありますので。（先ほどの説明で、障がい体験研修を紹介しましたが）UD サービス研修は、差別解消法の趣旨も含んで行っています。

Q：さまざまな取り組みを伺って、大変参考になりました。ここまで UD 施策が浸透している理由は为什么呢。

A：子どもたちには UD 学習支援事業を、小学校 4 年生の総合学習の時間に、（教諭の）選択で行っています。夏休みには保護者も一緒に行きます。UD の取り組みが始まってからなので、15 年ほどになります。当時の子どもたちはもう大人です。そうやって根付いてきました。

所感

15 年以上が経過して、さまざまな蓄積があることがわかった。

ハード面にしても、特別に費用をかけるというのではなく、ユニバーサルな思想で取り組むと、こんなものにできるのだと感服した。実際に街を歩いてみて、地図のわかりやすさ、マンホール型方向指示器等に気づいた。特に街角の UD ブロックは、端が一部欠けるところがあるなど、長年使い込まれていることが、まさに目に見えた。

いただいたパンフレットにあった「障がいのある人に対する製品やデザインは、特別で費用がかかる」という概念を破り、ユニバーサルデザインを提唱したという、アメリカ人建築家ロナルド・メイス氏の語はその通りだとよくわかった。ハードに限らず、ソフト面でも、杉並区でも取り入れていくよう提唱していきたい。

